

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	2016年6月12日 6月号
----	---------------------	-------------------

若者と生きる教会（連合長老会合同連合執事会講演にて）

C. Y

先日、東京恩寵教会で連合長老会合同連合執事会講演を聴いてきました。テーマは「青年伝道」でした。その中身は①契約の子以外の若者をどう教会にお呼びするか ②契約の子をどう教会につなげていくかK G K総主事の大島重徳牧師を招き講演がなされました。

まず①は受付の大切さ、受付の対応次第で新来会者は自分はここに必要とされているのかと感じるとのこと。新来会者カードに記入していただいて、個人情報保護の説明がされているかなどの各種ポイントの紹介がされました。若者が教会に足を踏み入れるきっかけになるのが、信頼する誰かが勧めるので教会に行くというケースかありますが、友達を誘うクリスチャンホームの子の思いが、自分の大切な友人ほど教会に誘いたくないなぜならば教会がつまらなくて来週はいいやと言われたら、自分もその友人から来週はいいやと言われそう。

教会学校のポイントは小学校高学年にあり特に注意を払う。我慢するになっていないか1年生と6年生では大人とこども、中学生になってから部活動が始まってからが教会学校に来なくなる原因ではない。K G Kの主事とか教会学校の教師など若者に特化した人材を教会の中で育てる。牧師、長老、執事、家庭に招き夫婦仲の良い家庭を見せる。このような信仰的な証で若者を教会につなげる。

信仰の継承として、初代クリスチャンは必死、2代目は迷走、親戚に教会を理解してくれる人がいないから。例えとして、歌舞伎役者は2歳で初舞台、周りの人たちから支えられて成長し大物役者として成長し名誉ある名前を襲名したりする。彼らにはそのスキルがある。我々にも契約の子を育てるスキルがあるはず。

私が前から思っていたことは、教会運営は少ない労働力(奉仕者)とお金(献金)でうまく回らないものかと。教会は合理主義ではないという言葉も聞きますが、奉仕と献金に見合った神様からの祝福があると、若者に証していくことが難しいと感じました。

## 引退

K. K

僕の関東学院でのバスケは、5月15日に終わりました。対戦相手である山手学院は、自分達と比べかなり格上で、体格も10センチほど負けていました。ですから、前半が終わった時点で20点差で負けていました。しかし関東学院バスケ部は、粘りに粘って、最後の5分で7点差までに縮めることができました。後半だけで言えば勝つことができました。そこまで戦えたのも、今までの苦労があったからでした。

僕は中1からバスケ部に入り、最初は同学年のバスケ部は18人いました。もちろんその分レギュラー争いも激しく、日曜日に練習や試合がある日は、自分の中でものすごく葛藤がありました。教会に行くか、練習に参加するかです。そんな日々が試合前になればなるほど、強くなる一方でした。正直いうと練習を優先してしまった時の方が多いし、高校生になった時にはほとんど部活に参加していました。1か月以上教会に行かなかった時もありましたので、そろそろ教会に行かないといけなんじゃないかと思っていました。

しかしそんな時親から言われたことで、とても支えになったことがありました。それは「部活に行くのは、悪いことじゃない。でも神様のことを忘れて部活に参加していたらダメだよ。」という言葉です。その日から部活にも集中して参加でき、それと同時に教会に休んでも神様と離れることなく、今もこうして教会に通うことができ、信仰告白する決心ができました。

こうして自分の中1から高3まで約5年間教会に通いながら部活にも参加することができました。そんな5年間の集大成が5月15日、自分にとっては最後の公式戦が行われました。僕たち高3は、最初は18人いたのが今は5人にまで減りました。その分つらい練習にも耐え、きつい壁も乗り越えた5人なので、これ以上ないメンバーだと思っています。

また、自分はキャプテンとして1年間やってきました。やりたいことをするのではなく、すべきことをするというのがキャプテンとしての一番のスローガンでした。キャプテンを務めた1年はとてもつらい1年でしたが、その分濃い1年でもありました。意味のある練習をするかどうかは、個人の意識だと思っていますが、その環境をつくるのはキャプテンの使命であり、すべきことだと思っていたので、毎日一分一秒の練習の質についてとてもこだわってきました。意味のない練習をしたら、そこで負けであり引退です。毎日少しでも上達できたという練習をしなくちゃ、絶対勝てないからです。と言いつつも、集中できてない練習も多々ありました。監督に怒られ、練習を切り上げた時もありました。でもチームメンバーである高3、高2、高1でしっかりミーティングし、どうやったら濃い練習ができるのか日々話し合いました。レギュラーだけではなくベンチメンバーも同様に、上級生だけでなく下級生も同様に、どうしたら強い気持ち・高い集中力をもって練習ができるのかを。でも結局は話し合っても、そのミーティングはあくまで確認にしかならない

とわかりました。なぜならそういう練習をするのは個々の意識の問題であり、その意識を変えるのはどうしても上級生の発言ではなく本人の行動でしか変えられないからです。

高3がそれに気づいて実際に意識して行動していったのは、最後の一か月でした。しかしその一か月で自分達は大きく変わることができ、最後の最後に山手学院といい試合ができたと思っています。試合には負けて悔しかったけど、それ以上に関東学院というチームで苦しい練習を乗り越え、このメンバーで試合ができたことのほうが自分にとって大きいものとなりました。

## ルター500

T. I

来年2017年はルターが宗教改革を行ってちょうど500年という節目の年です。

プロテスタントがあるのも、改革派があるのも、ひいては横浜中央教会があるのも、500年前に宗教改革があったからと思うと不思議な感じがします。

先日、Iさんがバッハコレギウムジャパンの青山学院でのレクチャーコンサートのチケットを特ってきてくださっていました。レクチャーコンサートには行かれませんでした。コンサートに行ってきました。

バッハコレギウムジャパンでは来年の節目の年を覚えてルター500プロジェクトを行っています。その第二回目のコンサートでした。

宗教改革から500年。途方もない年数に実感もわかなければあまり何も感じません。しか、コンサートに行き、ルター派の讃美歌に直結したバッハのカンタータを聞くと心に染み渡るものを感じます。

バッハの音楽にはまさに癒しがあり、魂が満たされます。

この癒しや魂の充足を感じるのも、バッハの音楽を同じ信仰をもった、しかも改革派信仰をもった人がやっているからだと思います。(他の人のバッハのコンサートに行ったことはありませんが、確信を持って！)

こんなに恵まれた環境、他にありませんね。

ルター500プロジェクトはまだ続きます。